

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	元八王子保育園
-----	---------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

物体の動き

<テーマの設定理由>

水をテーマにした活動を経て、水の動き以上に、一緒に流れる玩具や物体に強く興味を示していたため。

2. 活動スケジュール

9月…室内にペットボトルで作成した水路や雨樋を用意し、傾斜をつけて設置する。

- ・室内にある玩具をのせて動きを観察し、何が転がるのかを探し出す。
- ・子どもが自ら試行錯誤して、傾斜の角度やコースの変更をする。

11月…教材を使用して、同様の活動を実施する。

教材を屋外にも用意し、室内とは異なる物体を転がして動きの観察をする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【準備した道具】 ペットボトルで作成した水路、雨樋、わくわく水流しセット、ミニカーセット、カラーボール、トミカ、台座

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

室内にある玩具を次々に水路や雨樋に投入する。よく転がるトミカや球状の物体を選び、繰り返し転がし、その動きを観察する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

玩具によって転がり切らずに途中で止まってしまうものがあることに気づき、転がすものを選ぶようになる。教材の高さまで視点を落とし、車の車輪を眺める子や、転がる時の振動、音に興味をもつ子もいた。コースの展開までは子どもたちが思い付かない様子だったため、保育者がコースを組むようにした。すると、次からは子ども自ら傾斜の角度や方向に変化を加える姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 同じ事象を観察していても、子ども一人ひとりの興味関心の視点は異なっていることに気付く。音、振動、回転と次へのテーマにつながるヒントが多数あった。
- ・ 約半年かけて継続的にこの遊びを楽しむうちに、2歳児でも試行錯誤しながら友達と協力してコース作りをするようになる。台や床の材質によって、スロープが滑ってしまい固定が難しいこともあるため、子ども自身で解決できる手段、補助道具を見つけた。